発信人	日本国符許厅	(国際調金機関)	

AND MATERIAL CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF THE	REC'D 1 8 NOV 2004
出願人代理人	HEC.D 9 160 A 5004
吉田茂明	WIPO PCT
様 あて名	
〒 540-0001 大阪府大阪市中央区城見1丁目4番70号 住友生命OBPプラザビル10階	PCT 国際調査機関の見解告 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]
	発送日 (日.月.年) 16112004
出願人又は代理人 の 舎類 記号 FP18733WO-00	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 [·] PCT/JP2004/011292 (日.月.年) 30.	優先日 07.2004 (日.月.年) 14.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl. 7 C12M1/38	
出願人(氏名又は名称) ダイキン工業株式会社	
1. この見解書は次の内容を含む。	る新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
第VI欄 ある種の引用文献	
第VII欄 国際出願の不備	
第222 第222 第222 第222 第222 第222 第222 第2	
際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この	調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 て国際調査機関の見解費を国際予備審査機関の見解ቔとみなさ 見解費は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
この見解告が上記のように国際予備審査機関の見解告と ら3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了す な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができ	みなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日か る期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当 る。
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照	すること。
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	参照すること。
見解啓を作成した日 29.10.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 会木 恵理子 4 N 3 1 2 6
郵便番号100-8915	鐵話番号 03-3581-1101 内線 3448

第 I 欄 見解の基礎		<u> </u>
1. この見解書は、下	に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。	
この見解啓は、 それは国際調査	語による翻訳文を基礎として作成した。 のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。	,
2. この国際出願で開 以下に基づき見解	されかつ簡求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列 を作成した。	こ関して、
a. タイプ	配列表	
	配列表に関連するテーブル	
b. フォーマット	□ 費面	
	□ コンピュータ読み取り可能な形式	
c . 提出時期	出願時の国際出願に含まれる	
,	この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出され	iた
	山願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された	· ·
3. さらに、配列 た配列が出願 あった。	を又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列 Fに提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含ま	若しくは追加して提出し ない旨の陳述書の提出が
 4. 補足意見:		
,		
	•	-
100 to 1 to 100	المهالي والمسابع للمسابع المستداد	
		•
	•	

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/011292

第V欄 新規性、進歩 それを裏付る	性又は産業上の利用可 文献及び説明	能性についてのPCT規!	則43の2. 1 (a) (i) に定める見	解 、
1. 見解				
新規性(N)	語求の 音求の		2-14	有
進歩性(IS)	請求の 請求の		1-14	
産業上の利用可能	性(I A) 請求の 請求の		1-14	

2. 文献及び説明

文献 1: JP 07-274938 A (サッポロビール株式会社) 1995.10.24 文献 2: JP 2003-235544 A (株式会社日立製作所) 2003.08.26

・請求の範囲1について

請求の範囲1に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により新規性を有さない。

文献1には、細胞、微生物等を培養するウェルを複数設けたマイクロプレートと、該ウェル内の温度を制御する熱電冷却素子と、冷媒循環装置と、温度センサーと、熱伝導作用を持つ銅版とを備えた温度制御装置が記載されており(図2参照)、該温度制御装置を用いることにより、ウェルの温度制御を素早く、高い精度で行うことができると記載されている。ここで、熱電冷却素子は、本願発明の「ヒータ」に、冷媒循環装置は、「冷却部」に、銅版は、「熱伝導体」に相当すると認められる。

(補充欄に続く)

補充概

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲1-14について

請求の範囲1-8に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により進歩性を有さない。

請求の範囲1-8について、文献1に記載された温度制御装置において、ウェルの 形状等に応じ、熱電冷却素子や銅版の形状を好適化することは、当業者が容易になし 得ることである。

請求の範囲9-14に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1-2により進歩性を有さない。

文献2には、細胞、微生物等を適切な培養環境で培養するための、温度、pH等を 測定する手段、得られた測定データを記憶する記憶手段、該データに基づいて培養環 境の制御を行う制御手段等を備えた生体細胞の培養制御装置が記載されている。

請求の範囲9-14について、文献1に記載された温度制御装置において、細胞、 微生物等を適切な培養環境で培養するため、温度、pH等を測定する手段、得られた 測定データを記憶する記憶手段、該データに基づいて培養環境の制御を行う制御手段 等を併せて用いることは、当業者が容易になし得ることである。

発信人 日本国特許庁(国際調査機関) REC'D 18 NOV 2004 出願人代理人 PCT WIPO 吉田茂明 様 あて名 PCT 国際調査機関の見解書 〒 540-0001 (法施行規則第40条の2) 大阪府大阪市中央区城見1丁目4番70号 [PCT規則43の2.1] 住友生命〇BPプラザビル10階 発送日 (日.月.年) 今後の手続きについては、下記2を参照すること。 出願人又は代理人 の書類記号 FP18733W0-00 優先日 国際出願日 国際出願番号 (日.月.年) 14.01.2004 30.07.2004 PCT/JP2004/011292 (日.月.年) 国際特許分類(IPC) C l . 7 C12M1/38 Int. 出願人 (氏名又は名称)

		ダイキン工業株式会社
_		
	1.	この見解書は次の内容を含む。
١		× 第1欄 見解の基礎
		第11 第11 個 優先権
١		第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
١		■ 第IV欄 発明の単一性の欠如
	•	
l		□ 第VI欄 ある種の引用文献
١		第VI欄 国際出願の不備
l		第VII欄 国際出願に対する意見
	2.	今後の手続き 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさ ない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
		この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解暦とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁啓を提出することができる。
		さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。
Į	з.	さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解鸖を作成した日 29.10.2004 4 N 3126 特許庁審査官(権限のある職員) 名称及びあて先 鈴木 恵理子 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区假が関三丁目4番3号 3448 **電話番号 03-3581-1101 内線**

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

国際調査機関の見解母

国際出願番号 PCT/JP2004/011292

第1欄 見解の基礎				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			,	
1. この見解書は、下記	記に示	上場合を除くほか	、国際出願の言	語を基礎と	して作成され	ぃた。		
□ この見解書は、 それは国際調査	のため	に提出された P	による翻訳文を C T規則12.3及	:基礎として(ぴ23.1(b)にい	作成した。 いう翻訳文の	の官語である。		
2. この国際出願で開 以下に基づき見解す			係る発明に不可	「欠なヌクレ	オチド又はフ	アミノ酸配列	に関して、	
a. タイプ		配列表	•	•				٠.
		配列表に関連す	るテープル	٠	· ,			•
		•••===				•		
b. フォーマット		書面	7. Hit い inteb ナンボジ	·	·		•	
•	Ш	コンピュータ読	外取り り貼な形	E.				·
c. 提出時期		出願時の国際出	額に含まれる					
•		この国際出願と	共にコンピュー	夕読み取り可	「能な形式に	より提出され	iた	
		出願後に、調査	のために、この	国際調査機関	見に提出され	た		
3 さらに、配列 た配列が出願 あった。	表又は 時に提	配列表に関連する 出じた配列と同一	らテープルを提出 - である旨、又に	せした場合に は、出願時の	、出願後に抗 開示を超える	是出した配列 る事項を含ま	若しくはi ない旨のD	自加して提出し 東述書の提出が
4. 補足意見:		•		•	•			
,			•			•		
		•					•	
						•		
						•		` '
,	•	13 t				• •		
	۵۰					والمعاري المعاري		
1	۵۰					والمعاري المعاري		

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/011292

第V	/ 欄 新規性、進歩性又は産業上 それを裏付る文献及び説明	の利用可能性に	ついてのPCT規則	川43の2.1(a)(i)に定める	見解、	
1.	見解				•	
-	新規性(N)	請求の範囲 請求の範囲		2-14		_ 有
,	進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲		1-14		_ 有 _ 無 _
	産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 請求の範囲		1-14	•	_ 有 _ 無

2. 文献及び説明

文献 1: JP 07-274938 A (サッポロビール株式会社) 1995.10.24 文献 2: JP 2003-235544 A (株式会社日立製作所) 2003.08.26

・請求の範囲1について

請求の範囲1に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により新規性を有さない。

文献1には、細胞、微生物等を培養するウェルを複数設けたマイクロプレートと、該ウェル内の温度を制御する熱電冷却素子と、冷媒循環装置と、温度センサーと、熱伝導作用を持つ銅版とを備えた温度制御装置が記載されており(図2参照)、該温度制御装置を用いることにより、ウェルの温度制御を素早く、高い精度で行うことができると記載されている。ここで、熱電冷却素子は、本願発明の「ヒータ」に、冷媒循環装置は、「冷却部」に、銅版は、「熱伝導体」に相当すると認められる。

(補充欄に続く)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 棡の続き

・請求の範囲1-14について

請求の範囲1-8に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により進 歩性を有さない。

請求の範囲1-8について、文献1に記載された温度制御装置において、ウェルの 形状等に応じ、熱電冷却素子や銅版の形状を好適化することは、当業者が容易になし 得ることである。

請求の範囲9-14に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1-2により進歩性を有さない。

文献2には、細胞、微生物等を適切な培養環境で培養するための、温度、pH等を 測定する手段、得られた測定データを記憶する記憶手段、該データに基づいて培養環 境の制御を行う制御手段等を備えた生体細胞の培養制御装置が記載されている。

請求の範囲9-14について、文献1に記載された温度制御装置において、細胞、微生物等を適切な培養環境で培養するため、温度、pH等を測定する手段、得られた測定データを記憶する記憶手段、該データに基づいて培養環境の制御を行う制御手段等を併せて用いることは、当業者が容易になし得ることである。